

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）
分担研究報告書

慢性に経過する痒疹 26 例の検討 分類不能な痒疹の位置づけについて

分担研究者	西澤 綾	防衛医科大学校皮膚科
	端本宇志	防衛医科大学校皮膚科
	佐藤貴浩	防衛医科大学校皮膚科
	横関博雄	東京医科歯科大学大学院皮膚科学分野

研究要旨 慢性痒疹には結節性痒疹と多形慢性痒疹の二つが知られるが、いずれとも判断しがたい痒疹群を経験する。慢性に経過する痒疹患者 26 例について検討したところ、結節性痒疹 5 例、多形慢性痒疹 5 例であり、残りの 16 例はどちらとも分類しがたい症状を呈していた。悪性腫瘍が誘因と考えられた例は極めて少なかった。分類不能な一群は、蕁麻疹様紅斑を伴って広範囲に病変をみる病型が主体であり、TARC 値が他の 2 型に比して高く、またステロイド全身投与歴のあるものが多かった。分類不能な痒疹の位置づけについてさらに検討する必要がある。

A 研究目的

痒疹は急性痒疹、亜急性痒疹、慢性痒疹に分けられる。日本皮膚科学会における診療ガイドラインでは、慢性痒疹として結節性痒疹と多形慢性痒疹の二つをあげ、その概念を定義した。しかし多形慢性痒疹の定義にはいまだあいまいな点があるため皮膚科医によってとらえ方に差を生じている。また診療の現場では結節性痒疹とも多形慢性痒疹ともつけがたい痒疹群を経験する。

B 方法

慢性に経過する痒疹患者 26 例についてその臨床病型と検査データ、原因などにつき検討した。

C 結果

26 例の痒疹患者のうち結節性痒疹 5 例、多形慢性痒疹 5 例であり、残りの 16 例はどちらと

も分類しがたい症状を呈していた。いずれの痒疹においても悪性腫瘍が誘因と考えられた例は極めて少なかった。分類不能な一群は、蕁麻疹様紅斑を伴って広範囲に病変をみる病型が主体であり、TARC 値が他の 2 型に比して高く、またステロイド全身投与歴のあるものが多かった。

D 考察

痒疹患者では悪性腫瘍の検索が勧められているが、関連が確認される例は非常に少ないことは注目に値する。また分類不能な痒疹は病変の範囲が広いことや、紅斑性病変が目立っていることに特徴があるが、個疹の反応は多形慢性痒疹に類似している面もある。したがって多形慢性痒疹と病態は同じで、その重症型ないし悪化時の状態を見ている可能性もある。ステロイドの全身投与が表現型の修飾に関与しているかどうか検討が必要である。

E 結論

分類不能な痒疹の位置づけ、そして多形慢性痒疹の定義と概念については今後検討の余地がある。

F . 健康危険情報
なし

G . 研究発表

1. 論文発表

1. Sakiyama M, Maeda M, Fujimoto N, Satoh T. Eruptive syringoma localized on intertriginous area. *J Dtsh Dermatol Ges* 12: 72-73, 2014.
2. Nishizawa A, Igawa K, Teraki H, Yokozeki H. Diffuse disseminated lichenoid-type sarcoidosis mimicking erythroderma. *Int J Dermatol* 53: e369-370, 2014
3. Sakiyama M, Matsuo H, Shimizu S, Chiba T, Nakayama A, Takada Y, Nakamura T, Takada T, Morita E, Naito M, Wakai K, Inoue H, Tatsukawa S, Sato J, Shimono K, Makino T, Satoh T, Suzuki H, Kanai Y, Hamajima N, Sakurai Y, Ichida K, Shimizu T, Shinomiya N. A common variant of leucine-rich repeat containing 16A (LRRC16A) gene is associated with gout susceptibility. *Human Cell* 27: 1-4, 2014.
4. Inazawa M, Satoh T, Yokozeki H. Hyperkeratotic variant of inflammatory disseminated superficial porokeratosis with lichenoid reaction and extensive amyloid deposition. *Int J Dermatol* 53: e94-95, 2014.
5. Fujimoto N, Iwasaki J, Satoh T. Scrotal calcinosis may arise from cyst wall apoptosis. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 28: 128-130, 2014.
6. Higuchi T, Satoh T, Yokozeki H. Using CD40 ligand expression to detect antigen-specific T cells in patients with drug eruptions. *Acta Derm Venereol* 94: 86-87, 2014.
7. Hashimoto T, Satoh T, Furuya A, Kataoka N, Yokozeki H. Kimura's disease with prurigo lesions treated with systemic indomethacin. *J Eur Acad Dermatol venereal* 28: 1260-1262, 2014.
8. Shiba Y, Satoh T. Isolated benign primary cutaneous plasmacytosis. *Int J Dermatol* 53: e397-398, 2014.
9. Furuya A, Takahashi E, Ishii N, Hashimoto T, Satoh T. IgG/IgA pemphigus recognizing desmogleins 1 and 3 in a patient with Sjögren's syndrome. *Eur J Dermatol* 24: 512-513, 2014.
10. Ono K, Fujimoto E, Fujimoto N, Akiyama M, Satoh T, Maeda H, Fujii N, Tajima S. In vitro amyloidgenic peptides of galectin-7: possible mechanism of amyloidogenesis of primary localized cutaneous amyloidosis. *J Biol Chem* 289: 29195-29207, 2014
11. 佐藤貴浩 : 高齢者のアレルギー性皮膚疾患 IV. 多形慢性痒疹とかゆみ アレルギー・免疫 21(2): 288-291, 2014
12. 佐藤貴浩 : 痒疹の粘り強い治療 /慢性痒疹の定義と分類 *Monthly Book Derma* 214(2): 1-4, 2014
13. 佐藤貴浩 : 虫刺され、ストロフルス、痒疹 今日の治療指針—私はこうしている

ー2014 Vol. 56 総編集 山口徹 北原
光夫 福井次矢 医学書院 東京
pp1097-1098, 2014

14. 佐藤貴浩：痒疹はどのようにしてできる？ WHAT'S NEW IN 皮膚科学 2014-2015 宮地良樹編 メディカルレビュー社 東京 pp58-59, 2014
15. 端本宇志, 佐藤貴浩:慢性痒疹治療の決め手ー慢性痒疹の診断はついたが治療の解決法は？ 苦手な外来皮膚疾患の解決法 宮地良樹編 メディカルレビュー社 東京 pp64-65, 2014
16. 佐藤貴浩：皮膚癢痒症. 診療ガイドラインUP-TO-DATE 監修 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹 メディカルレビュー社 東京 pp631-633, 2014

2. 学会発表

1. 佐藤貴浩: アトピー性皮膚炎ー基礎の側面からー モーニングセミナー 第44 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 仙台市 23/11/2014
2. Satoh T: What is prurigo? -a mysterious disease with pruritic papules of unknown etiology- The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka, 14/12/2014
3. 佐藤貴浩: 好塩基球からみた痒疹の病態と治療 第44 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 仙台市 22/11/2014
4. 佐藤貴浩: 皮膚アレルギー疾患の薬物療法ーステロイド外用薬の使い方ー 第1回総合アレルギー講習会 横浜市 20/12/2014

H：知的財産権の出願・登録状況
なし